

○ 本校の概要

- ◆教育目標 「共感・納得・理解できる指導」を基盤として、生徒・保護者や地域の信頼に応える教育活動を推進し、公教育の使命を果たすため、以下の目標を掲げる。
 ・きまりを守り、責任を果たす人になろう ・自ら進んでよく学びよく働く人になろう ・心身ともに健康で情豊かになろう ・互いに尊重しあい思いやりのある人になろう
- ◆生徒数 全校生徒231名(1年:76名、2年78名、3年77名) ◆教員数 17名
- ◆学級数 7学級(1年:3学級、2年:2学級、3年:2学級)
- ◆特色ある教育活動 全校道徳、カサコ稚魚放流、池上自動車学校と連携した自転車安全教室、ツーウェイコミュニケーション、学習新聞づくり、ボランティア活動

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄				
								評価 人数	コメント			
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもへの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4: 80%以上	○引き続き外国語教育指導員を活用しながらオールイングリッシュの授業進行により、英語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいく。 ○校内展示会や区の展示会、ものづくりフォーラム等に向けた美術・技術・家庭科での作品作りや理科教科書の授業を通して、体験活動や論理的思考力の育成を図る。	A	6	○オールイングリッシュの授業は良い取り組みであり、英語に慣れることが大切だと考える。 ○校内展示会がとて素晴らしいであった。 ○タブレット端末を利用して授業を行うことで、生徒にとってより分かりやすく、理解を深めることができると期待している。 ○他者の人権について考えることは大切である。		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 ①学校は、「生きる力」を育むために道徳指導として、1年「職業調べ」、2年「職業体験・上級学校調べ」、3年「面接指導」を行っている。これらの活動は生徒に役立っている。	3: 60%以上	4	○校内研修会や授業観察等の機会を活用し、タブレット端末の活用による生徒の学力向上につなげていく。 ○道徳科の授業を通して人権教育資料を活用した授業を実施するとともに、日常の学級指導等の機会を通して他者の人権について考える機会を作る。	B	2	○校内研修会や授業観察等の機会を活用し、タブレット端末の活用による生徒の学力向上につなげていく。 ○道徳科の授業を通して人権教育資料を活用した授業を実施するとともに、日常の学級指導等の機会を通して他者の人権について考える機会を作る。	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 1:60%未満であった。	4	○対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4: 80%以上	4	○小学校と連携して作成している「体力向上計画」にもとづき、体育科の授業開始時に連年で行っている補助運動の時間を活用し、生徒の基礎体力の向上を図る。	C	0	○小学校と連携して作成している「体力向上計画」にもとづき、体育科の授業開始時に連年で行っている補助運動の時間を活用し、生徒の基礎体力の向上を図る。
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 60%未満	1:	○小学校と連携して作成している「体力向上計画」にもとづき、体育科の授業開始時に連年で行っている補助運動の時間を活用し、生徒の基礎体力の向上を図る。	D	0	○小学校と連携して作成している「体力向上計画」にもとづき、体育科の授業開始時に連年で行っている補助運動の時間を活用し、生徒の基礎体力の向上を図る。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 80%以上	4	○学習カルテを三者面談や道徳指導の時間に活用し、生徒の学習状況の把握や学習方法について指導を行った。 ○ステップ学習チェックシートを活用し、生徒一人ひとりのつまずきについて分析し、効率的に学力の定着を図る。次年度以降は、学習効果測定の結果を活用して学習状況を知らせる。	A	4	○つまずきを見つけて正せば、その先の学習に進めるので、チェックシートの活用は有効だと考える。 ○少人数の習熟度別授業や補習教室が成果を上げているようで、良い取り組みだと考える。学習カルテやステップ学習チェックシートの活用を通して生徒一人一人の学習状況を把握しているのが素晴らしい。		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2	4: 60%以上	4	○学習効果測定の結果をもとに授業改善プランを各教科で作成し、小中一貫教育の観点から小学校の先生方と共有しながら日常の授業改善に生かしている。	B	3	○ステップ学習チェックシートは自分のつまずきについて分析するためのものならば、年間の活用頻度が少ないと感じる。学習のつまずきを取り戻すために活用を推進するべきと考える。		
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	4: 60%未満	4	○学習効果測定の結果をもとに授業改善プランを各教科で作成し、小中一貫教育の観点から小学校の先生方と共有しながら日常の授業改善に生かしている。	C	1	○ステップ学習チェックシートの活用頻度が少ないと感じた。		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4: 40%未満	4	○学習効果測定の結果をもとに授業改善プランを各教科で作成し、小中一貫教育の観点から小学校の先生方と共有しながら日常の授業改善に生かしている。	D	0	○ステップ学習チェックシートの活用頻度が少ないと感じた。		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高め、自他の生命を尊重するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培っていきます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4: 80%以上	4	○引き続き、小中一貫教育の会などの機会を活用しながら小学校の先生方と連携して取り組んでいく。また英語に關しては英検対策講座を開講した結果、英検3級の二次試験受検者全員が合格することができた。	A	5	○小学校では、最高学年として、様々な機会にリーダーシップを発揮する機会があった。中学校では、ルールを守ることが再度意識させ、しっかりと組織、クラス、学年にいてほしい。 ○先生方の取組に頭が下がる思いである。子どもたちの自己肯定感を高めるためにも、一人一人に寄り添った対応をお願いしたい。		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4: 60%以上	4	○道徳地区公開講座の機会等を活用し、生命の大切さについて再認識させることができた。引き続き全校道徳や学校教育全体で道徳教育に取り組む、生徒たちの豊かな心を育てていく。	B	3	○生徒一人一人をとてもよく見ていると感じる。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 60%未満	4	○学校生活調査の結果を分析するとともに、担任が面談を実施し、支援が必要な生徒をSCや外部の相談機関等につなぐことができた。引き続ききき生がもつ多様なニーズに回答できるように努めていく。	C	0	○不登校(不登校)については、SCや校内別室登校、適応指導教室等の関係機関につなぐことができるので、引き続き一人一人に対する適切な支援を行えるよう努めていく。生活指導上問題となる行動については、担任だけでなく学年や生活指導主任、管理職等が連携しながら対応し、解決に努めていく。		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 40%未満	4	○不登校(不登校)については、SCや校内別室登校、適応指導教室等の関係機関につなぐことができるので、引き続き一人一人に対する適切な支援を行えるよう努めていく。生活指導上問題となる行動については、担任だけでなく学年や生活指導主任、管理職等が連携しながら対応し、解決に努めていく。	D	0	○不登校(不登校)については、SCや校内別室登校、適応指導教室等の関係機関につなぐことができるので、引き続き一人一人に対する適切な支援を行えるよう努めていく。生活指導上問題となる行動については、担任だけでなく学年や生活指導主任、管理職等が連携しながら対応し、解決に努めていく。		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 80%以上	4	○「早寝・早起き・朝ごはん月間」の資料配布や朝礼、学活での講話等を通して、生活リズムの改善を図るとともに、健康的な生活を送れるよう指導を継続していく。	A	7	○食事は生活の要である。食事を満足に取れない子どもがいるという話を耳にすることがあるので、家庭の問題だが、何とかしたいと考える。 ○睡眠・食事・運動など、どれも大切なことなので、健康的な生活習慣が身につくよう、継続指導をお願いしたい。		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4: 60%以上	4	○給食だけでなく季節のメニューや食料の産地についての情報提供を行うとともに、栄養に関する正しい知識等を発信しながら、バランスよく食事を採ることの大切さを引き続き発信していく。	B	1	○小学校と連携して作成している「体力向上計画」にもとづき、授業開始時の補助運動を継続して実施することによって基礎体力の向上を図っていく。		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4: 40%未満	4	○特別支援委員会を月1回実施し、支援を必要とする生徒たちの情報共有や次の課題を共有するとともに、各教員が生徒一人一人に適した指導ができるようにしていく。	C	0	○小学校と連携して作成している「体力向上計画」にもとづき、授業開始時の補助運動を継続して実施することによって基礎体力の向上を図っていく。		
		部活動は充実した活動になっている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4: 40%未満	4	○特別支援委員会を月1回実施し、支援を必要とする生徒たちの情報共有や次の課題を共有するとともに、各教員が生徒一人一人に適した指導ができるようにしていく。	D	0	○特別支援委員会を月1回実施し、支援を必要とする生徒たちの情報共有や次の課題を共有するとともに、各教員が生徒一人一人に適した指導ができるようにしていく。		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4: 80%以上	4	○引き続き授業公開日のアンケートは早く集約し、ご意見はまとめて全教員にフィードバックを行うことで、授業改善につなげていく。 ○授業改善セミナーの研修成果を生かし、日々の授業において主任教諭がOJTを実施する中で指導・助言を行っている。	A	6	○支援を必要とする生徒への対応は難しく、成果が上がりにくいと思う。しかし、彼らが将来社会に出ていくときに、わかってほしいと思う。 ○各学年の授業の様子を見た際、おおむね静かに授業を受けていた。意見も発言もあり、楽しそうに授業を受けている様子が見られた。 ○保護者の意見や他校の研究発表は大変有意義であると思うので、ぜひ今後の授業に生かしていただきたい。		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4: 60%以上	4	○区内小中学校のすべての研究発表会に担当教員が参加し、その成果を共有するための研修会を実施することで、ICTの活用や授業改善のヒントを得て、授業改善に生かしていく。	B	2	○ホームページでの情報発信が増え、学校や生徒の様子がよくわかるようになった。今後もぜひ続けていただきたい。		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4: 60%未満	4	○特別支援委員会を月1回実施し、支援を必要とする生徒たちの情報共有や次の課題を共有するとともに、各教員が生徒一人一人に適した指導ができるようにしていく。	C	0	○ホームページでの情報発信が増え、学校や生徒の様子がよくわかるようになった。今後もぜひ続けていただきたい。		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回以上行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4: 40%未満	4	○特別支援委員会を月1回実施し、支援を必要とする生徒たちの情報共有や次の課題を共有するとともに、各教員が生徒一人一人に適した指導ができるようにしていく。	D	0	○特別支援委員会を月1回実施し、支援を必要とする生徒たちの情報共有や次の課題を共有するとともに、各教員が生徒一人一人に適した指導ができるようにしていく。		
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4: 80%以上	4	○ホームページを活用して学校経営方針などの基本情報や学校だよりを掲載するとともに日々の教育活動の様子について学校日記形式で写真付きの記事を年間200回程度発信した。	A	7	○生徒の活動の情報発信など、積極的に取り組んでいる。 ○地域教育連絡協議会の日に、毎回授業参観があることに感謝している。 ○地域の特色を生かした活動ができています。		
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の受容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	4: 60%以上	4	○地域教育連絡協議会では、毎回授業参観を実施して生徒たちの学習や生活の様子についてご覧いただき、学校が実践している教育活動について助言等をいただいた。	B	1	○地域教育連絡協議会の日に、毎回授業参観があることに感謝している。 ○地域の特色を生かした活動ができています。		
		学校支援地域本部と連携するなど、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4: 60%未満	4	○遊漁船組合と連携したカサコ稚魚放流体験や、地域の商店などと協力を進めながら実施している職場体験など、地域力を生かした教育活動を実施することができた。	C	0	○地域教育連絡協議会の日に、毎回授業参観があることに感謝している。 ○地域の特色を生かした活動ができています。		
		保護者は、学校からの各種便りやお知らせなどの配布物を保護者に見せている。	4:学期に2～3回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4: 40%未満	4	○遊漁船組合と連携したカサコ稚魚放流体験や、地域の商店などと協力を進めながら実施している職場体験など、地域力を生かした教育活動を実施することができた。	D	0	○遊漁船組合と連携したカサコ稚魚放流体験や、地域の商店などと協力を進めながら実施している職場体験など、地域力を生かした教育活動を実施することができた。		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する